

# 第17回「たばこはやめて！」(2004～05年)コンクールの審査講評

## 1. 紙芝居・絵本

紙芝居と絵本は、同じように絵をならべていくけれど、そのあり方、作り方は、全く違うものである、と毎年言い続けて来て、ようやくそれが定着してきているのかとも思う応募作品が出てきているようです。今年は厚生労働大臣賞と文部科学大臣賞が、絵本、紙芝居とにうまく分かれることになりました。

絵本については、いかにもデザイン関係を学んだという感じの、処理のきれいな作品も多いのですが、CGや写真版などの多用は「小さくまとまっている」という印象を与える場合も多いのです。人のぬくもりを伝える表現に努力してください。

紙芝居では、「クイズ」形式のものと「物語」を描いたものが比べられることがありました。すると「クイズ」紙芝居は絵も上手で、作品の力もあったのですが、「物語」紙芝居の方が選ばれました。作品としてのまとまった印象は、どうも「物語」紙芝居の方に軍配が上がるようです。

本コンクールは、テーマが決まっていて、それが表現上の制約だと感じられるかもしれませんが、しっかりとテーマに向きあうという姿勢があれば、かえってそこから自由な発想がわきあがってくるはずです。俳句の五、七、五文字を六、七、五にしたからといって「自由な」表現を手に入れたとは誰も思いません。五、七、五という最小限の語数で、とてつもない空間性を表現できるのが俳句の「自由」です。

絵本、紙芝居それぞれの特性を理解して、そのなかでテーマを自由に活かした応募作品が最終的に受賞しました。その自由さ、ユニークさが啓発にも幅を与えていくことがコンクールの意義なのです。(堀田 穰)

## 2. マーク

マークに求められる要件は、なによりも「誰が見てもひと目で意味が分かる」ことに尽きます。つまり一目瞭然が条件です。それはシンプルであるということと同義です。

厚生労働大臣賞を受賞の作品は、力強い線と顔の表情が優れたマークだと、審査員のほとんどが高い評価を与えました。色づかいも見た目には大事な要素となりますが、シンプルで簡潔なタッチと併せて色彩の点でも群を抜いていました。

文部科学大臣賞には中学2年生の生徒が描いた作品が選ばれました。マークといった趣よりも、イラストに近いものですが、優しいイメージのある動物(ウサギ)が、虫取りの要領で有害なモノを一網打尽にする発想が評価されました。ともすれば×印やNGといった平凡な記号や文字を描き入れた作品が目立つ中であって、ユニークでほのぼのとした可愛らしさが目を引きまします。

今回のマーク応募数1,046点の中には、スローガンやキャッチフレーズの語句を書き入れた作品が多くありました。しかし、マークとは日本語の読めない外国の人にも理解できるものでなければなりません。あくまでビジュアルで勝負するのがマークです。語句を加えることは蛇足になってしまいがちです。あくまでシンボリックな絵化を心掛けてください。(山田 彬)

## 3. 標語・川柳・ネーミング

私たちの心に働きかけて強い印象を残す標語の要件を挙げてみますと、アピールすべき内容が的確に表れている 短いフレーズで、語呂(リズム感)が良いこと さらに欲を言えば、ユーモア感覚があること。この3点に集約できるのではないのでしょうか。

標語というものは、目的を持った運動を他人にも指し示すもので、それを上意下達するように生真面目に強く表現すると逆効果になりかねません。「そんなにキツク言わなくても・・・」と、抵抗感すら出てきます。ところが、それをちょっとしたユーモアでくるんでやれば、受け手は思わずニヤッ

として「そうですね，同感，同感」となるのです。要件としてユーモア感覚の必要性を挙げたのは，その意味からです。

今回，幅広い年齢層から1万5千点近い作品が寄せられたということは，社会的に如何に「禁煙・嫌煙・分煙・無煙」が浸透しつつあるかを示しています。

厚生労働大臣賞を受賞の「吸わないで あなたの空気は みんなの空気」，そして文部科学大臣賞を受賞した「その煙 やさしい心も くもらせる」は，共に嫌みのない素直なメッセージ性の高いフレーズで，審査員の共感を得ました。

また，入賞には至らなかったものの，少し手を加えるだけで訴求力がキラリと光る作品が幾つかありました。表現力をよりアップするにはどうすればよいでしょうか。それは作り上げたら必ず自分で何度も口に出してみる。そのうえで，おもむろに推敲する。例えば，うしろにある句を冒頭の句と入れ替えてみる（倒置）とか，おとなしい言葉をオーバーにする等，受け手になったつもりで再度検討してみることです。（山田 彬）